

## 2012年度佐世保市一般会計予算案

# 歓迎すべきものもあるが、総じて市民の暮らしに冷たい予算

3月議会では2012年度佐世保市一般会計予算案、国保など特別会計、水道事業会計など総額2246億円の予算案が審議され、賛成多数で可決されました。

昨年度、日本共産党の提案で実現した、住宅リフォーム緊急支援制度は、大きな成果をあげました。1億2500万円の予算で、1539件の利用があり、その総事業費は約19億にのぼり、これらの新たな仕事が佐世保市内中小建設業者にもたらしました。

また、二次救急輪番・救急搬送体制強化に新たに3245万円、学校図書管理システム整備に新たに2381万円など、命を守る、子どもの教育のためなどの予算が付けられるなどおおいに歓迎すべきものも多々あります。

しかし、以下重大な問題を含んでいることもあり、日本共産党山下千秋市議は、本予算案に反対致しました。

第一は地域経済不況を打開できる予算になっていません。予算案の市税歳入を分析すれば、対前年度より5億の減額予算です。市民の給与所得が減る、納付できる会社事業所数そのものが倒産その他で減る、事業収益があがらず法人税割収が減る見通しだからです。

第二には、ハウステンボスに昨年は8億6000万、今年度7億5000万円の税金投入で支援するなどの大企業優遇です。「おれ

日本共産党  
山下市議



たちの経営が危ないからといって固定経費を援助してやるなどということも一回でもしたことあるか。逆に滞納しようものなら差し押さえまでする。この落差は何なのか」市内中小業者の声です。

第三には、前畑弾薬庫返還のために、針尾・安久の浦湾60ヘクタールも埋め立て外国軍隊の弾薬庫建設をめぐるとか、潜水艦隊誘致を進めるなど日米軍事同盟強化を地方から協力するという予算になっています。

第四に、税金の無駄遣いはつきりしている石木ダム建設促進を盛り込んでいます。

第五に、市民の暮らし、中小企業支援、農漁業支援には冷たい予算になっています。子ども手当では、9億の削減、生活保護予算も3億の削減しています。一方市民税は均等割りで500円の増税、介護保険料は約月額930円の引き上げ、国保税もまた引き上げなど、負担増が目白押しです。

## 八月から「行政センター」が「支所」になります

# 住民サービスはますます不便に

先の佐世保市の三月議会での市の出先機関の再編合理化条例が可決され、吉井町の行政センターや生涯学習センターがそれぞれ「支

所」、「地区公民館」に名称変更されることが正式に決定されました。旧吉井町時代平成16年度(まで)には81名だった職員

## 鷲尾岳風力発電の風車が回転し始めたけれど…



の意見を受け、新立石方面からの取り付け道路は断念されましたが、会社側は江迎の旧三扇鉞業方面からの道路に変更し、六機の風車の中で一号機の設置場所を多少変えて建設という一種の譲歩策をとって完成されました。

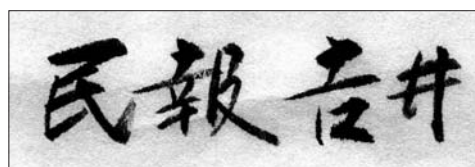
先日、2012年度立石地区総会が開催され、鷲尾岳風力発電所の件が議題になっていました。

4月の回覧板で知り「佐世保市朝永市長と鷲尾岳風力発電所社長の間で交わされた「確認書」を読むことができました。その後、5月の回覧板が回された際、「保存版」厚紙と「協定書」が全戸配布されました。「協定書」の日付は「平成22年12月18日」。低周波や騒音などを心配する地区

が聞こえるお宅もあり、被害の声は聞きませんが、低周波の影響は気になるところです。「協定書内容の文言に関する説明会の開催」なども場合によっては必要かと思われます。気がかりなことがあったら連絡員の方にすぐ連絡して解決をはかるなど、泣き寝入りにはならないように、関心を持ち続ける必要があります。

は昨年23年度には16名に、そして今年8月1日から9名(生涯学習センターⅡ地区公民館1名)になるということです。「平成の大合併」と銘打った、地方の合理化は、私たち市民の生活感覚を失わせ、不便にしたにすぎないようです。おそらく今後は、地域に息づいてきた伝統や文化が急速に失われていくことが懸念されます。

なお、近隣の合併された世知原、宇久、小佐々、江迎、鹿町の5町の職員数はかつては総計512名でしたが、今回の組織改編で78名に。実に434名もの削減です。地域の高齢化が進む中、住民サービスはますます不便になり、伝統や文化が地域から消滅していくのも時間の問題になりそうです。



直谷の陸橋

